

コロナに負けない

京都橘大生応援歌制作へ



コロナ禍の応援ソングを作るようになった京都橘大の学生たち(京都市山科区・同大学)



シンガー・ソングライター
の河口恭吾さん(日本クラ
ウン提供)

長引く新型コロナウイルス禍で困難に直面している人を歌で励まそうと、京都橘大(京都市山科区)の学生たちが、ヒット曲「桜」で知られるシンガー・ソングライター河口恭吾さんと一緒に応援ソングを作るようになった。大学生活でさまざまな制約を受け思うようにならない

日々が続く中、「一人でも前向きな気持ちになれるよう背中を押したい」と企画した。

きっかけは、学内で昨年に実施された新型コロナウイルスの職場接種。医療系学部所属する医師や看護師らが接種を担い、多くの学生もボランティアで運営に加わった。すると、接

種を受けた地域住民や他大学の学生らから千通に及ぶ感謝や励ましのメッセージが寄せられ、困難な状況だからこそ人となりが大切さを実感したという。

集まったメッセージを何か形

に残せないかと考え、曲作りを思い付いた。河口さんと接点はなかったが、地域創生などに取り組んでいることを知り、メールで協力を依頼したところ快諾してくれたという。

プロジェクトには職場接種に関わった学生を含め、1〜4年の約30人が参加する。作詞や作曲をはじめ、歌や演奏、プロモーションビデオの制作までを河口さんとともに担う。授業や課外活動が大きく制限され友達作りに苦労しながらも、目標や楽しさを見いだしてきた学生自身

の経験も反映させたい考えた。6月ごろの完成を目指し、大

「桜」河口恭吾さんと

作詞アイデア、26日まで公募

6月ごろの完成を目指し、大
学応援歌としても活用してい
く。現在は作詞のための素材集
めを進めている。職場接種を通
して寄せられたメッセージを取
り入れるほか、歌詞になるエビ
ソードを一般公募している。テ
ーマは「コロナ禍でも予想外に
楽しめたこと」「未来への希望
や思い」などで大学ホームページから応募できる。26日まで。
文学部3年の江本迪香さん
(21)は「コロナ禍でうまくい
かないことも多いけど、『楽し
いことを見つけていこう』と少
しでも元気を出せる歌になれば
うれしい」と意気込んでいる。
(森大樹)